

経営比較分析表（令和元年度決算）

大阪府 熊取町

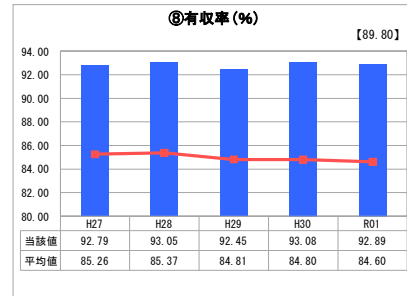
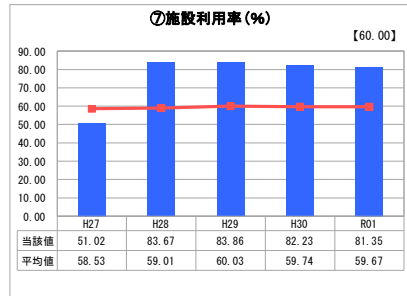
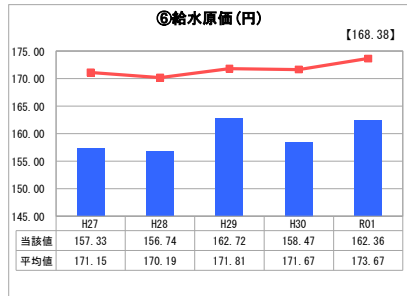
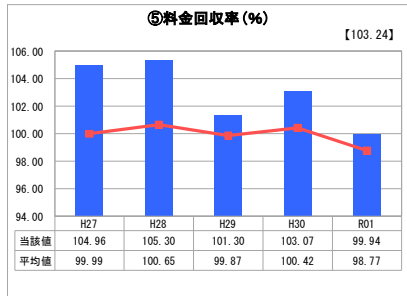
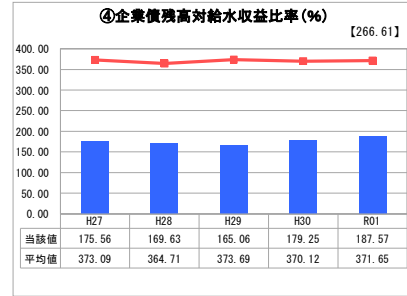
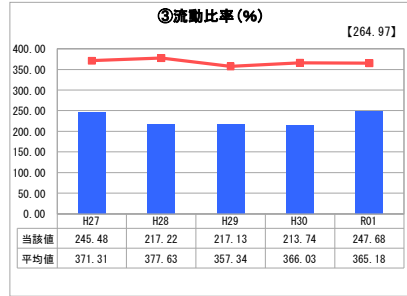
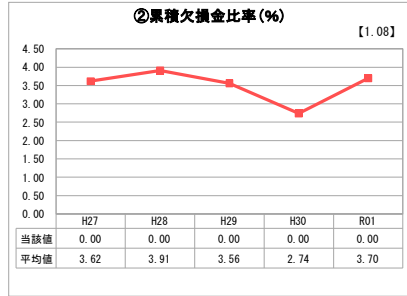
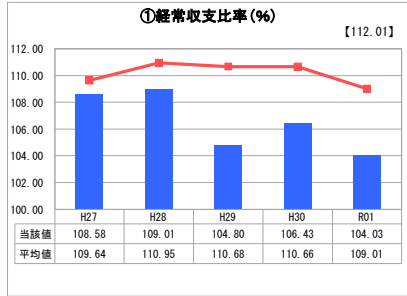
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.71	99.29	2,700	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
43,671	17.24	2,533.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
43,223	14.00	3,087.36

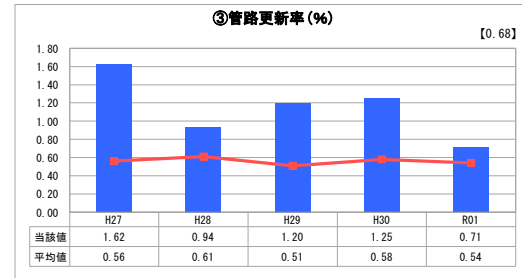
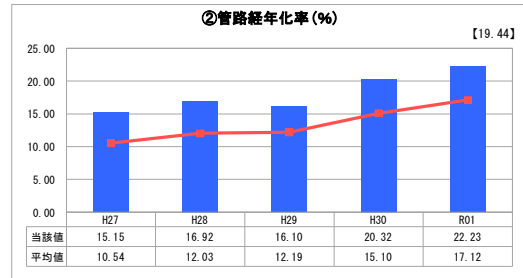
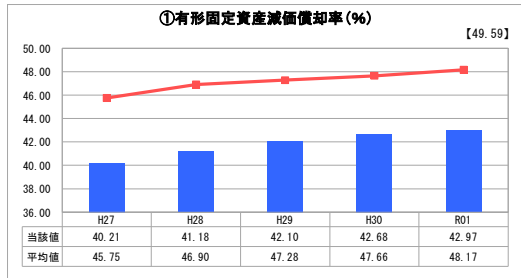
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① H28からH29にかけて当該値が減少しているのは、H29は町内全域で実施した漏水調査業務やその後実施した漏水修繕業務、退職手当負担金繰入額が増加したことなどにより、営業費用が前年度と比較して大幅に増加したことが原因です。
 H30は経常費用を抑制したことにより増加したものの、R1は給水収益の減少や営業費用の増加などにより再び減少に転じています。

④ 現状では類似団体平均値を大きく下回っているものの、企業債残高が増加し、給水収益が減少する傾向となっているため、今後注視していく必要があります。

⑤ R1では給水収益の減少などにより、当該値が100%を下回っており、給水に係る費用が給水収益だけでは賄えていない状況となっています。今後も現行料金のままでは給水収益の増加は見込めない状況です。

⑦ H27からH28にかけて当該値が増加しているのは、H28に策定した「熊取町第6次水道拡張事業計画」において、一日配水能力を修正したことによるものです。
 H30以降においてもほぼ同水準を維持しており、類似団体平均値に比べ高い数値となっています。

2. 老朽化の状況について

② 人口が大幅に増加し、開発が進んでいた時期に布設された管路が法定耐用年数の40年を経過してきていることから、当該値は増加傾向となっており、類似団体平均値と比べても高い数値となっています。

③ H30からR1にかけて当該値が減少しているのは、大阪広域水道企業団との統合に伴い予定している大規模な更新工事に備えるため、事業費を抑制したことによるものですが、類似団体平均値との比較では高い数値を維持しています。

全体総括

本町の水道経営は現状では健全性を確保できているものと考えますが、R1においては料金回収率が100%を下回り、今後も給水収益の減少傾向が見込まれることから、R4には料金改定を予定しています。

今後も、給水収益の減少や管路等の老朽化に伴う更新需要の増大など、経営環境は厳しい状況が続くものと想定しています。

R3からは大阪広域水道企業団と統合を予定しており、運営基盤を強化するとともに、府補助金やスケールメリットの活用などにより、老朽管路更新や、お客さまサービスの維持・向上を図ってまいります。